

お役にたてば幸い劇場



■ファクトとフェイク

ロシアがウクライナに侵略を開始してひと月を超えた。国際法を無視した信じられない暴挙である。ここで注目したいのは恐るべき情報戦の高度化である。ウクライナの発信する情報とロシアの発信する情報の何が事実でどれがフェイクなのか。大統領の姿をAIで模して演説させるなど国民がウソを信じざるを得ない技術レベルになっている。国家レベルのフェイクが現実にある。そこにある。

有効性までをフェイクだとは言わないが、日本国民は幼児から歳とつて棺桶に入るまで年何回もワクチンを打ち続けるのか。何が本当なのか。医療崩壊とか国家非常事態とか言葉が踊って、メディアと専門家は煽り続けてきた。

今ウクライナの戦場がワイドショーを独占し、コロナ専門家の顔を見なくなつて洗脳が融けた思いの人も多いのではないか。非常事態とはなにか。本州の人には感じられないのだろうか、

翻つて日本を見ると、新型コロナウイルスの迷走した情報のどこまでが真実でどこからが風評でどれがフェイクなのか、政府も専門家も結局なにも確認しないままで本日に至っている。3月29日に感染研がやっと空気感染だと認めた。であれば空気清浄機と空間除菌しか対策はない。今までのアルコールとアクリル板は何だったのか。ワクチンの

ロシアは北海道の数kmの先にある。樺太も国後島も目の前に見えているのである。北朝鮮のミサイルが襟裳沖に落ちるだけでなく津軽海峡をロシア、中国の軍艦が往来し、北方領土でロシアの軍事訓練が毎年実施されることを考えると北海道の危機管理はコロナどころではないはるかに危険な非常事態の局面になったと感じるべきである。



筆者紹介 株式会社あかりみらい代表取締役 越智文雄

1980年北海道大学法学部卒業後北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。